

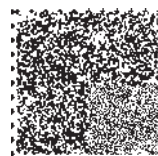


表紙デザイン作者：みやもと かずあき さん（絵本作家、和歌山県有田市在住）

今号の
注目記事

- ◇男女共同参画週間 公開セミナー 片山善博さん
- ◇特集 「災害時の備えを、“多様な視点”で考える」
- ◇講座レポート
- ◇和歌山のチカラ

“りいぶる”はフランス語で「自由な（libre）」という意味で、当センターの愛称です。
センターニュースりいぶるはスマートフォンアプリ、Uni-Voice（ユニボイス）により文字情報を提供しています。
アプリをダウンロードのうえ、ご利用ください。



男女共同参画週間 公開セミナー

男女共同参画週間（6月23日～29日）にちなみ、片山善博さんをお招きして講演会を開催しました。高齢化が進み歯止めがかからない人口減少を背景に、地方創生を実現するために何が必要か、女性活躍の視点からお話いただきました。

人口減少時代の地方創生 ～女性活躍の視点から～

講師

かたやま
片山よしひろ
善博 さん大正大学公共政策学科教授
地域構想研究所所長
元鳥取県知事

2025年6月14日（土）和歌山ビッグ愛 1階大ホール

はじめに日本の人口減少の現状について、人口が安定するには合計特殊出生率が2.07%必要だが実際は1.15%であることや、1年間で約91万人の人口が減っており深刻化していると話され、人口減少によっておきる労働力不足、消費量減少、経済縮小、税収減少、道路などのインフラや公共施設維持の困難などその影響について説明されました。

次に10年前の安倍政権時代の「地方創生」と現在進行中の「地方創生2.0」を比較して、以前の「地方創生」は、自治体ごとに人口減少に歯止めをかけるよう求めたため、いきおい全国各地で移住促進施策が進められたが、結局人の奪い合いになるだけで日本の人口が増えたわけではなかったと解説されました。そして、人口問題はもともと国が考えるべき問題だと指摘されました。現在の「地方創生2.0」については、基本的に大切なこととして次の3点をあげられました。1点目は、人々の生活水準を維持し生き生きと自分らしく生きられる社会であること。そのためには、人口減少を前提に、人口や働き手が減っても一人ひとりがより多くの成果を生み出し生産性を向上させることが必要であり、労働時間を増やすのではなくデジタル化やDXを駆使して時短や人手不足を補う方法を工夫しなければならない。2点目は、女性や若者に好まれる地域にする施策を打ち出すなど、地元の皆がもっと自分たちの地域に目を向け、考えることが大事だと強調されました。3点目は、一人ひとりがのびのびと働ける社会にすること。一人ひとりが意欲と能力を発揮できれば生産性は向上するが、今はまだ、それを発揮できていない女性がいるのではないかと指摘、せっかく意欲と能力があっても性別を理由に活動を制限されると、本人も悔しい思いをするし社会にとっても損失である。人口減少時代では一人ひとりの貴重さが増し、全ての人が自己実現を通じて社会貢献につながる事が大事。

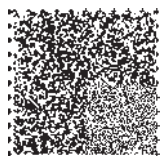
そして、そのためにはジェンダーギャップの解消が必要であると、鳥取県知事・部長時代の女性登用の例を挙げて説明されました。講師が鳥取県への2度目の赴任で総務部長として勤務し

た際、管理職に女性がほとんどいないことに違和感をもった。そこで原因を調べ

たところ、管理職に必要な男女の能力差は個人の能力差ではなく経験の差によって作られた能力差であることが判明した。女性は異動があっても仕事の内容はもっぱら庶務で、どこに行ってもほぼ変わらず、様々な経験を積む機会もなかった。一方男性は異動により難解な事案や厳しさを伴う仕事も担当し苦労をする分、経験を積み人脈も構築できていることがわかったと振り返られました。個人差はあっても、それに配慮しながら意欲と能力を伸ばすことが大事だと考え、性別に関係なく様々な経験が積めるように人事方針を変え、数年後には女性の管理職が誕生したそうです。（ちなみに鳥取県は都道府県版ジェンダーギャップ指数の行政分野で4年連続1位。）

女性の管理職のメリットについても具体的に説明がありました。女性が管理職になったことで、子育て経験などから福祉予算における外的無駄を省き本当に必要なところに予算を増やすなど、スリム化と行政の質の向上を図ることができ、皆が生き生きとしてきたとのエピソードを紹介されました。しかし中には男性管理職が年下の女性に頭を下げることを嫌うなど、女性に対する偏見をもつ男性職員もいたとのことで、根強く残る固定的な性別役割分担意識からの脱却とジェンダー平等を進めることが、誰もがのびのび働ける環境づくりにつながると結ばれました。

豊富なご経験に基づくお話はどれも示唆に富み、説得力をもって参加者の心に届きました。地元の皆が力いっぱい意欲と能力を発揮できる“ふるさと”は、地元を最もよく知る地元の皆の手でつくるもの。地元主導の地方創生に向けて弾みがつくお話でした。



災害時の備えを、“多様な視点”で考える

自然災害が多い私たちの国。台風、大雨・洪水、また記憶に新しい2024年元旦の能登半島地震、和歌山県でも近いうちに起こるといわれている南海トラフ地震。いつ起こってもおかしくない災害に対して、私たちが備えておくことは、非常持出袋などの物だけでなく、常に“多様な視点”で考えることではないでしょうか。

ここでは、ジェンダー平等の立場から“多様な視点”で防災を考えていきます。

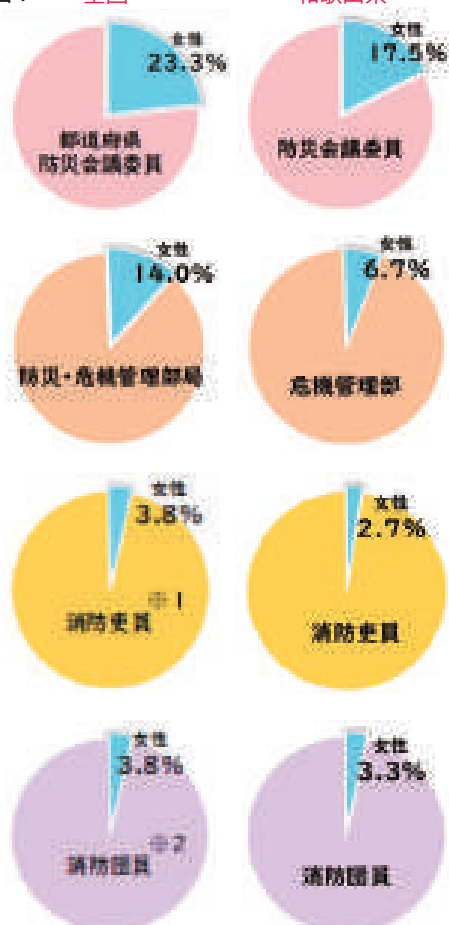
“多様な視点” ってどういうこと？

私たちの社会は、高齢者・病気の人・障害のある人・乳幼児を含むこども・妊産婦・性的少数者・外国籍の人など、様々な人で構成されています。男女により抱える問題が異なるためそれぞれに合った支援が必要な場合や、介護・看護・介助・育児など、複合的な配慮やサポートが必要な場合もあります。さらに、災害が起きる前の備え、発災時の備え、発災後や避難所での備えなど“多様な視点”で備えをすることが必要なのです。



防災関連の意思決定の場での女性の割合を見てみよう

図1 全国 和歌山県



※ 1 消防本部及び消防署に置かれる職員のうち、階級及び服制を有し、消防事務に従事する者。

※2 他に本業を持ちながらも、「自らの地域は自らで
守る」という郷土愛の精神に基づき、消防防災活動を行
う市町村の消防機関である消防団の構成員。

図1は、県防災会議・県危機管理部局・県内の消防吏員・消防団体の女性割合を全国平均と比べたものです。消防吏員・消防団員は全国と大差はありませんが、県の防災会議委員や危機管理部局の職員の割合は、全国平均より大きく下回っています。

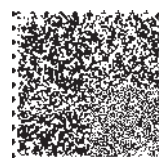
図2 和歌山県内の市町村防災会議で委員に占める女性の数(2024年度)



災害対策基本法に基づき設置されている地方防災会議には、各都道府県防災会議と市町村防災会議がありますが、いずれも女性が少ないのが現状です。

図2では、和歌山県内の各市町村の防災会議委員の全体数に対しての女性人数を示しています。女性委員の割合が20%を超えているのは海南市25人中6人(24.0%)、紀の川市29人中6人(20.7%)、和歌山市40人中8人(20.0%)の3市だけで、女性委員が誰もいない市町村が9カ所あることが分かります。

図1は、令和6年度消防白書、防災白書、和歌山県HP、総務省HP、内閣府HPより作成。なお、「防災・危機管理部局」は2023年12月末、他は2024年4月1日時点の数値。また、％は小数点第2位で四捨五入。
図2は、内閣府「市区町村女性参画状況見える化マップ」2024年度より作成。



第5次男女共同参画基本計画（令和2年12月25日閣議決定）では、成果目標として女性の割合を都道府県防災会議・市町村防災会議とともに2025年には30%、消防吏員を2026年には5%、消防団員を当面は5%（目標は10%）とすることを掲げています。ですが実際は、和歌山県、全国平均とも目標数値に達していません。これでは防災・復興における意思決定の場に女性の視点や意見が充分生かされているとは言えません。

女性が地域防災会議の委員や自治会長等として参画していくこと、また自治体での防災・危機管理部局において、女性の職員を増やすことは、防災計画、発災時、避難所、復興時を通して多様な施策展開や多様な支援につながります。女性が意思決定の場に参画することで、男性と女性のニーズの違いなどをお互いに理解し、現場に活かすことができます。あらゆる立場や能力を持った人が参画することで、防災計画に“多様な視点”が反映され、多様な人々に対応できるようになります。

多様な視点で

発災前・発災時・避難所・復興時の対応を考えましょう

1. 発災前

- ◎赤ちゃんのミルクやアレルギーのあるこどもに対応した食糧の備蓄をしておく。
- ◎乳幼児用や介護が必要な大人用のオムツ、生理用ナプキン、尿とりパット等を準備。
- ◎避難場所・避難所の所在地や経路を確認し、実際に非常時持出袋をもって歩いてみる。
- ◎近隣の高齢者や障害者などサポートが必要な人がいることを把握しておく。
また平常時から近隣の人との交流を大切にする。



2. 発災時

- ◎身の安全、避難経路を確保し、最寄りの避難場所へ移動する。
- ◎安否確認のために、携帯電話やインターネット端末を使って伝言掲示板（文字情報）を利用。または、「災害用伝言ダイヤル 171」（音声情報）を活用。
- ◎情報の発信や収集時には、SNSでのデマ等による誤情報もあるため、信頼できる発信源（自治体やメディア等）を確認するなど、注意する。



3. 避難所生活

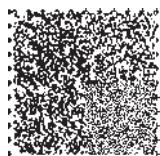
- ◎間仕切り・パーテーションを使い、プライバシーが守られる場所の設置。
- ◎女性用、男性用の更衣室や洗濯干し場や授乳室、赤ちゃんのオムツ交換場所を設置。
- ◎女性用品、男性用品がそれぞれ受け取りやすい配布方法で必要な人の手に渡るようにする。
- ◎トイレは人通りのある、明るい場所に！また、女性用仮設トイレは多めに設置。多目的トイレも設置。
- ◎食事、掃除などの担当は男女ともに！どちらかの性に負担が重くならないようにする。
- ◎誰でも気軽に相談できる窓口や環境を作る。（信頼できる SNS での専門相談も利用）
- ◎キッズスペースなど、こどもが遊べる場所を作る。
- ◎配慮が必要な人の声が届きやすいような仕組みを作る。

★避難所運営の主要メンバー（リーダー的役割の人）には、男性だけでなく、必ず女性も参画し一緒に取り組む。



4. 復興時

- ◎男性だけでなく、女性の就労支援も行う。
- ◎こどもや介護が必要な方の預け先を整える。
- ◎仮設住宅生活では、男女双方の支援員が巡回する。
- ◎住宅復興支援等の情報を得て、周りと共有する。



◆避難所の役目◆

避難所はそこに避難している人たちが活用するためだけでなく、帰宅困難者、在宅避難者、車中泊避難者等も利用できる「地域の拠点」でもあります。家族のなかに乳幼児、障害者、要介護高齢者などがあることで、避難所で過ごすことをためらう人たちもいます。

水や食料をはじめ、生活に必要な物資の供給、トイレや着替えのスペースなど、避難所施設を利用しやすい仕組みづくりも必要です。



こんな課題も・・・

避難所生活での暴力防止！

避難所生活では、プライバシーを守ることも難しく、性暴力が起こることがあります。女性だけでなく男児を含むこどもや若年層が被害に遭うこともあります。ボランティアや支援者からの暴力、避難者からボランティアや支援者に対する暴力もあります。平常時にもまして、災害時には声をあげることを躊躇しがちです。また、避難者には配偶者からの暴力、ストーカー、虐待などの被害に遭っている人がいることも心に留めておきましょう。

平常時からDVや性暴力への理解を深め、警察や病院、相談支援などとの連携を整えておくことも大切です。避難所全体の巡回は男女ペアで行い、女性トイレや女性更衣室などは女性が巡回するなどしましょう。

復興期の女性の就労復帰！

復興期には、女性に比べ男性の就労復帰が優先されがちです。それは、女性の雇用形態が平常時から非正規雇用、契約社員、アルバイト・パートなどと不安定なため、災害により、休業・解雇・雇い止めにあうことが多いことや、こどもや高齢者などのケアが必要な家族の預け先が見つからず、就労の見通しがたちにくいことが理由としてあげられます。また背景に女性が家族のケアをすべきとの固定的役割分担意識の影響も考えられます。

平常時にこそ、“多様な視点”を養う

ここまで“多様な視点”で災害時への備えを考えてきましたが、“多様な視点”を養うには、普段の生活のなかで、意識する・行動する・慣れておくが必要です。平常時から準備できることも多いのです。

意識する

防災委員会や自治会役員などへの女性や障害者等、多様な人々の参画を進めるためには、防災や復興において、女性や障害者等の視点や活躍が有益であることを、男女ともに理解することが必要です。（男性はあらゆる場面への女性の参画に柔軟に対応する。女性は、委員の公募に応募するなど防災会議等への参画を積極的に行い、機会があればリーダーの役目を引き受ける。）障害者や高齢者等も積極的に声を届ける。

行動する

自治会、地域の班、グループなどで学習会や講演会、ワークショップなどを開催して、他の地域の好事例や取組みを学ぶ。そして、様々な分野で活動する団体とつながりを持ち、情報共有できるツールを作っておく。また、ゲームなどを活用しながら避難所運営を想定したシミュレーションを実施するとともに、実際に非常持出袋を持って、指定の避難所に行ってみる。

慣れておく

男女ともに食事の準備や掃除、洗濯など生活に必要な家事ができると、避難所でも男女問わず様々な仕事が分担でき、特定の人に負担がかかることを防げます。



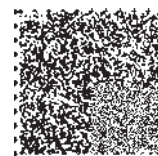
家族で参加するのもいいね

今一度、一人ひとりが、“多様な視点”をもつ重要性を考え、暮らしのなかにも取り入れてみましょう。



内閣府男女共同参画局から、「災害対応力を強化する女性の視点～男女共同参画の視点からの防災・復興ガイドライン」が公表されています。右の二次元コード、または下記のURLからご覧いただけます。

[guidelene_01.pdf](#)



2025 年
8/30 (土)

講座レポート “りいぶる” 語り合い広場

ジェンダーに出会って生きやすくなった!

講師: アルテイシア さん
(作家・頌栄短期大学非常勤講師)

会場: “りいぶる” 会議室 A

講師は、大学時代や就職後の容姿差別やハラスメント体験を紹介し、当時はその原因が自分にあると思い込んでいたが、ジェンダーを知り、それは自分のせいではなく差別をする側に問題があることがわかり、生きやすくなったと話されました。

ジェンダーについて、生まれた時にわりあてられた性別 = SEX に対して、社会的、文化的に作られた性別がジェンダー = GENDER だと説明されました。また、アンコンシャスバイアスは、誰にでもあり「〇〇子ちゃんは女の子だけど成績がいい」など無意識にほめ言葉として言いがちだが、「女の子だけど」は要らない。このように、自分も差別するかもしれないと思いながら常にアップデートする必要があると述べられました。マジョリティ（多数派、大勢。社会では男性。）は自分の持つ特権に気づきにくいので、その自覚を持つことが必要であり、加害者扱いされる居心地の悪さは乗り越えてほしい。男性が“徒競走”だと思っているものは、女性には“障害物競走”（女性への差別、育児、家事等が障害物）だと例えられ、男性は、知識を積極的に学び、有害な“男らしさ”を学び落とすことが大切だと話されました。

ジェンダーを知って差別に気づく感覚を常に更新すると、差別やハラスメントにあった時に、自分の心と身体を守れると同時に、怒ったり、切り返したりできるようになると語るとともに、差別発言をしないための「性別に結びつけず、そのまま言う」、「自分では変えられないもの（性別、人種、国籍等）について言及しない」などの様々なポイントも示されました。

終始、明るく、具体例をあげながら語られ、“モヤモヤ”がスッキリ晴れた講座となりました。

2025 年
9/6 (土)

男性の“生きづらさ”とその向き合い方

～男性相談窓口から～

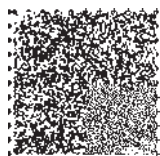
は まだともたか
講師: 濱田智崇 さん京都橘大学総合心理学部准教授 / 公認心理師
臨床心理士 / カウンセリングオフィス天満橋代表

会場: 紀の川市立打田生涯学習センター

日本初の“男性が男性の悩みを聴く”電話は講師が大学2年生の時に開設。以来30年間続けてこられ、現在は全国に約80か所の相談機関があるが、認知度が低くまだまだ潜在的な需要があると話されました。最も多い相談は“性”に関する悩みで、性器についての悩みのほか、性暴力も多く表面化しにくい深刻なケースも多数あると紹介されました。次に多い相談は“性格・生き方”で、男性の方が競争社会で常に勝つことをより求められ、“男らしさ”を期待される。「男らしさ」の期待に応えようとする男性は挫折した際、「弱い自分が悪い」と悩み、「男らしさ」に違和感を抱える男性は「周りとの競争をやめたい」と悩むと述べられました。「弱音を吐くべきではない」と考える男性も多く、自殺者は女性の約2倍だと説明されました。

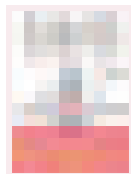
現代社会は、間違った発言が許されない「不寛容な社会」がベースにあるとされ、男性の生きづらさと向き合ういろいろなヒントを次のように紹介されました。自身のあたりまえを疑い、自分を客観視する。「〇〇ねばならない」を「〇〇だったらいい」に、「〇〇すべき」を「〇〇したい」に置き換えて考える。あるがままの自分を許容する。本当に伝えたいことを自分を主語にして言う〔I（アイ）メッセージ〕。悩みを共有する。相手の感情を受け止め共感するなど。

最後に、大切なのは、社会全体で従来の男性優位社会由来の「かくあるべし」からの解放を目指すことだと強調されました。



りいぶる 図書室

スタッフおすすめの本をご紹介します★

今すぐできる心の守りかた
フラッシュバック・ケア

著 者：服部信子

出版社：KADOKAWA

「フラッシュバック」とは、昔体験したトラウマが思い出され、まるで今起きているかのように心と体が反応してしまうこと。本書ではフラッシュバックが心の弱さからではなく生理的反応であり、自分にあった対処法、予防法、治療法を見つけ繰り返すことで症状が軽減すると説明。この方法は日々の小さなストレスにも適応できるので、自身のコントロール法を学ぶためにも必読。

ぼく、いいたい ことがあるの



著 者：ジャン＝フランソワ・セネシャル

イラスト：岡田千晶

翻 訳：小川仁央

大切なおばあちゃんを亡くしたキツネの男の子。おばあちゃんと過ごした楽しい思い出をたどりながら、ゆっくりと別れを受け入れていく。そしてキツネの男の子はおばあちゃんに、（もう読んではもらえないけれど）言えなかったことを手紙に書き始める。最後にキツネの男の子が伝えたかったこととは……。大切な人と別れる悲しみに優しく寄り添ってくれる一冊。

だったら、あなたも
フェミニストじゃない？

著 者：アルティシア

出版社：講談社

「この人とジェンダーやフェミニズムの話をしたら面白そう」そう筆者が思う7人との対談とコラムでつづった本書は、全編リズムカルに読めて面白い。対談には固定的性別役割、多様性、ルッキズム、自分を大切にすることなど、さまざまな要素がちりばめられていて飽きない。

自覚がなくても案外フェミニストは多いのかも(?)と勇気づけられる。



和歌山のチカラ ～今、この人に会いたい～

「女子でも野球がしたい！ 甲子園を目指したい！」そんな熱い思いをもって和歌山県立和歌山北高等学校在学中に女子野球部を設立した松野いろはさん。また、創立2年目の和歌山県立海南高等学校女子硬式野球部員として日々練習に励む4人のみなさんに、お話を伺ってきました！

松野いろは さん (2025年3月和歌山県立和歌山北高等学校卒業〈以下、北高〉。専門学校生)

1. 野球を始めたきっかけは何ですか？ 父が野球、母がソフトボールをしていた影響で、小学校3年生から地域の男女混合クラブチームに入りました。当時、女子は私1人だけで男子との体力差に不安はありましたが、小学6年生ではチームキャプテンをつとめました。

2. 中学・高校時代はどんなふうに野球を続けたのですか？ 中学からは田辺の女子野球チームに所属しました。松野いろはさんは高校は北高に進み、最初はマネージャー兼選手をしていました。でも「やっぱり甲子園を目指したい！」という思いから、2年生の時、学校に女子野球部設立の嘆願書を提出し、校内で勧誘のチラシを配りました。

3. 将来の女子野球への希望や思いを教えてください。 もっと女子野球が広まってほしいです。県内の高校で野球を続ける選択肢ができて、女子が活躍できる場がもっと増えたらいいと思います。個人的には、いつか女性の審判員を目指したいと思っています。



松野いろはさん

和歌山県立海南高等学校女子硬式野球部 (2024年4月に創立)

1. 野球を始めたきっかけは何ですか？ 4人のうち3人が「兄が野球をしていた影響で小学低学年の頃から野球チームに入りました。」1人は「小学校5年生の時に、野球をやっていた同級生の男の子から誘われたのがきっかけです。」

2. 女子が野球するうえで「女子ならではの」大変だったことは何ですか？

全員が「走るスピードや体格差などの身体能力の差です。」

3. これからの女子の野球チームがどうなっていってほしいですか？ 展望は？

「野球を続けるには、今は県外への進学や寮生活、通学時間なども考えないといけないので、その心配をせずに野球に集中できるようになったらいいと思う。」「男子と同じように地区予選があって、全国大会で甲子園に行けるような形になってほしい。」「女子の野球人口が増えて、男女関係なく自分がしたいスポーツができるようになってほしいです。」「海南高校に野球部がなかったら、県外への進学も覚悟していた。距離や寮の問題で野球をあきらめた子もいるので、誰もが続けられるようになってほしいです。」

最後に4人から、

「海南高校女子硬式野球部、部員募集中です！野球好き女子の皆さん、一緒に野球をやりたい！！」

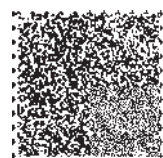


左から順に

松田 真理奈さん(2年生)、川村 灯桜さん(2年生)

東本 澤侖さん(1年生)、上野山 愛海さん(1年生)

取材の後のグラウンドでは、地道にバット練習をしたり、走ったりと懸命に汗を流す4人の姿がありました。試合は遠隔地の連合チームに合流して行うなど、その苦労は並大抵でないことが想像できました。でも、大好きな野球に真剣に取り組む彼女たちは、きらきら光って、とってもカッコ良かったです。道をつくっている彼女らのたくましさ感動しました。



“りいぶる” 相談室 相談受付専用ダイヤル



073(435) 5246

相談は無料。専門の相談員がお話を伺います。
予約は、希望者本人に限ります。秘密は厳守します。ナンバー
ディスプレイは使用しておりません。

総合相談 家庭や職場のこと、生き方への不安など、様々な悩みや相談に男女共同参画相談員が応じます。

電話相談

火水木金土 9:00～20:30 (受付は20:00まで)

〇〇〇〇〇〇 9:00～17:00 (受付は16:30まで)

面接相談 【要予約・女性のみ】

火水木金土 9:00～17:30 (受付は16:30まで)

〇〇〇〇〇〇 9:00～16:00 (受付は15:00まで)

女性のためのカウンセリング

女性が抱えるこころの問題に女性カウンセラーが応じます。

女性のための法律相談

夫婦、財産相続、金銭問題等、女性にとって身近な法律上の問題に女性弁護士が応じます。

男性のための電話相談

職場のストレス、夫婦・家族・人間関係などの様々な問題に男性相談員が応じます。

面接相談または電話相談

〇〇〇金〇〇 13:00～15:40

※原則毎月第2・第4金曜日

要予約 (匿名可)、1日3人まで。
相談時間は1人40分。

面接相談

毎月2回 (不定期) 13:00～14:50

※日程は“りいぶる”までご確認ください。

要予約・女性のみ、1日3人まで。
相談時間は1人30分。

〇水〇〇〇〇 16:00～20:00

(受付は19:30まで)

※毎月第2水曜日

予約優先 (匿名可) 1日5人
相談時間は1人40分。

LGBTQ 相談

レズビアン(L)・ゲイ(G)・バイセクシャル(B)・トランスジェンダー(T)など、様々な性的指向や性自認の方のための専門相談窓口を開設しています。本人からの相談だけでなく、ご家族や友人、職場の関係者など周りの方からの相談もお受けします。秘密厳守、匿名での相談も可能ですので、安心してご相談ください。

面接相談または電話相談 〇〇〇〇土〇 14:00～18:00

※原則毎月第1土曜日 (2026年1月は第4土曜日) / 1日4人、相談時間は1人40分。要予約 (匿名可)
予約は前日の16:00まで。メール予約可。E-mail: e1105011@pref.wakayama.lg.jp
2025年度の相談日 (予定): 10/4, 11/1, 12/6, 1/24, 2/7, 3/7



性暴力について相談したい…

性暴力救援センター和歌山 わかやま mine
(和歌山県立医科大学附属病院内)

◆相談受付専用ダイヤル

オーエンキューキュー
073-444-0099

- 電話相談 24時間365日
(但し、22時～翌朝9時と年末年始はコールセンターでの対応となります)
- 面接相談 9時～17時45分 ※要予約、土日・休日・年末年始を除く
- 緊急医療 24時間365日

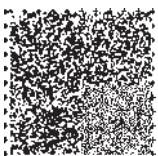
こころとからだの回復のために、女性支援員が細やかな支援を行います。
ひとりで悩まずに相談してください。



☆表紙デザインについて☆

作者である、みやもとかずあきさんは、ベビーこども服店を営みながら、創作活動を続けられ、2019年有田川町絵本コンクール優秀賞、2021年日産童話と絵本のグランプリ絵本の部優秀賞、2023年新美南吉絵本大賞入賞、講談社絵本新人賞を受賞。「あおくんふくちゃん」(講談社)で還暦にして絵本作家デビューを果たされました。

表紙は、栗、さつまいも、きのこ、落ち葉の衣装をまとった「秋の妖精」です。とてもおすましさんですが、本当は、秋が過ぎて空から白い雪が降ってくるのが待ち遠しく、ウキウキして嬉しいのです。



◆発行◆ 和歌山県ジェンダー平等推進センター “りいぶる”



和歌山ビッグ愛の9階にあります！

りいぶる

「りいぶる」で検索してね！

★LINE アカウント★

LINE“りいぶる”
公式アカウント
はこちら



♥フェイスブックも
更新中♥

〒640-8319 和歌山市手平2丁目1-2
県民交流プラザ和歌山ビッグ愛9F

TEL 073-435-5245 FAX 073-435-5247

E-mail: libre@sirius.ocn.ne.jp

【開館時間】 火曜～土曜：午前9時～午後9時
日曜：午前9時～午後5時30分

【休館日】 月曜・祝日・年末年始(12/29～1/3)